

高校生こそ本気で勉強しよう

— No Study Kids(ノー・スタディ・キッズ)の大学生にならないために—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q : 2012年1月14日・15日に、大学入試センター試験がありました。開倫塾の小学生・中学生・高校生の塾生や保護者、地域社会の皆様に訴えたいことはありますか。

A : (林明夫 : 以下省略)

- (1) 高校卒業後の進路を真剣に考えた上で、勉強に励んでもらいたいということです。
- (2) 高校卒業後に、約半数は4年制大学へ、3割は短期大学や専門学校に進学します。つまり、約8割の方が高等教育機関に進学します。残り2割は就職希望の方ですが、経済状況が厳しいために就職も非常に難しく、就職希望の方の何割かは高校卒業後に進学なさるようです。
- (3) 一方、大学・短期大学・専門学校は、少子化のために定員割れを生じているところが多く、入学試験を簡単にして、簡単に入学できるようにする傾向にあります。
- (4) 一方で9割近い高校生が高校卒業後に大学・短期大学・専門学校などに進学をする(これを「大学の大量化」と呼ぶようです)、他方でそれらの高等教育機関の多くは人口減のために定員割れを生じて、入学が簡単になっている。
- (5) この結果、何が起きているのか。No Study Kids(ノー・スタディ・キッズ)、つまり勉強をしないまま大学生になってしまった「学力不足の大学生」が大量発生している問題が起きているのです。それは、「算数のできない大学生」という本がベストセラーになったほどです。
- (6) 高校入試まで、つまり中学3年生までは真剣に勉強するが、ごく一部の進学校や特別進学クラス(従来型の難しい大学入試のある大学に進学を目指す学校やクラス)以外の高校生は、勉強らしい勉強をほとんどしないで高校時代を過ごし、そのまま大学・短期大学・専門学校に入学してしまうという問題です。
- (7) 短期大学や専門学校の中には、卒業後の就職率を上げるために、高校時代にあまり勉強しなかった学生に対して、基礎的な勉強をやり直させる本格的な取り組みを従来からもしてきたところが多く見られます。
- (8) 問題は、4年制の大学です。4年制の大学は高校で各教科の勉強が身に付いた学生にさらに高度な勉強をさせるところなので、高校の勉強を十分に理解し、身に付けていない学生には「理解が困難」です。大学は、毎回の授業を「理解」し、議論に参加、レポートを提出し、毎学年の前期試験・後期試験に合格しながら進級。そして、4年次に卒業論文や卒業研究を終えて卒業となります。それが、高校時代の学力が不足していると著しく困難となります。各教科の最低点がなかなか取れず、必要とされる単位不足で進級できずに留年となり、卒業できずに退学となります。
- (9) 学力不足のままうまく大学を卒業してもなかなか就職できずに、専門学校へ入学する方も数多くい

ます。しかし、所詮(しょせん)は高校時代の学力が不足していますので、朝から夕刻まで隙間なくギッシリ詰まった高度で専門性の高いカリキュラムについていけず、専門学校を退学する大学卒業の方も多いようです。

Q：大学・短期大学・専門学校では、学力不足の高校卒業者のための支援はしないのですか。

A：「リメディアル教育(補習教育)」といって、大学生として不足する各教科の中学校や高校レベルの補習教育を高校のOBやOGの先生方をお願いして行っているところも多いようです。また、単位の取り方、授業の受け方、ノートの取り方、辞書の使い方、図書館の使い方、レポートの書き方、自学自習の仕方、生活習慣の身に付け方などを1～2年かけてじっくり指導する「初年次教育」や、仕事とは何かから始まって就職する力をつけるまでを指導する「キャリア支援教育」に本格的に取り組んでいる大学もたくさん出てきました。

ただ、現実はいずれも積極的に行わないところも多く、また、せっかくそのようなプログラムがあっても積極的に参加しない学生も多いようです。その結果、学力不足のNo Study Kidsと呼ばれる大学生が大量に存在し、学生生活の継続(リテンション retention)に支障が出ている方も多いようです。(これらを解決するために、大学の先生たちが集まって「リメディアル学会」「初年次学会」などを作って研究しています。私もその会員の一人です。アメリカには「リテンション学会」があり、私もその会員です。大学教育を考える「大学教育学会」でも、この問題はたえず議論されています。私もその会員の一人です。)

Q：では、どうしたらよいのですか。

A：高校生が高校時代に、高校で勉強すべきすべての教科を真剣に勉強することに尽きます。

大学入試に出る教科はもちろんのこと、大学入試に出ない教科もすべて、大学・短期大学・専門学校の教育はその続きから始まると考えて、高校時代にきちんと勉強すべきです。1～2か月かけてキチンと準備をして定期テストを受け、高校時代の勉強は高校時代にしっかりと「理解」し、「定着」つまり身に付け、高校卒業後に備えていただきたいと希望します。

よほど高校卒業後に就職を希望する人も、高校時代に全教科をしっかりと勉強しておかないと、就職は難しいと考えます。

実業高校で学ぶ人の中にも、4年制大学や短期大学、専門学校に進学する方がたくさんいると思いますので、各教科とも進学校や普通科と同じレベルまで勉強することが大事です。就職する場合も同じです。普通科でAO入試などで合格を果たす人も、センター試験を受けるレベルで全教科を勉強しておかないと、大学入試後に厳しい現実が待っています。

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)進学校と呼ばれる高校で学び、難しいと言われる大学入試に合格を果たせばそれでよいと考えている皆様に一言。高校時代に入試科目だけを勉強していたのでは、大学の教育についていくのは困難です。全教科とも万遍なくすべて勉強してから、大学に進学して下さい。受験科目

でなくても、授業の予習と復習はバッチリ行い、定期試験には最大の準備をして臨みでよい点を取ることはして下さいね。

(2) 大学・短期大学・専門学校の教育は高校の教育の続きから始まりますので、高校時代の教科書や参考書、資料集、授業ノートは決して処分しないことが大事です。

(3) 高校や大学などを卒業後に、仕事に就いたり社会活動をする際にも、高校の勉強はすべて役に立ちます。家庭で生活したり豊かな人生を送る際にも、高校の勉強は役に立ちます。人生のすべての基本は高校の勉強にあるとさえ、私には思えます。

そのくらい大切なものが高校の勉強です。

(4) せっかく高校入試まで一所懸命に勉強したのですから、高校に入学後もしっかりと勉強して下さい。現在の高校生の皆様は、高校の勉強は今やるしかないと考えてしっかり勉強して下さい。

高校を卒業してしまった方は、今からでも遅くありませんから、不足している高校の勉強をもう一度しっかりやり直してみましょう。役に立つことが随分多いものですよ。

— 2012年1月19日林明夫記 —